

カラーイメージで学ぶ 〈新版〉統計学の基礎

[訂 正 表]

『〈新版〉統計学の基礎』をご愛読いただき、ありがとうございます。

本書におきまして、下記の訂正がございます。

深くお詫び申し上げますとともに、誠に恐れ入りますが、訂正いただきますようお願い申し上げます。

株式会社日本教育研究センター

ページ	箇所	原文	訂正文
142	ここがポイント	…条件で分分けされている場合、…	…条件で群分けされている場合、…
169	最下行	(無相関であるとは言えない)	(無相関ではない)
182～188	ページ上部の見出し	回帰職線	回帰直線
185	ページ全体	190ページと同じ内容が重複して印刷されています。 185ページの正しい内容は、裏面の通りです。	
186	右下図	$S = \Sigma u$	$S = \Sigma u^2$
200	下から2行目	$z_\alpha \times SE + z_\beta \times SE$	$z_\alpha \times SE + 2z_\beta \times SE$

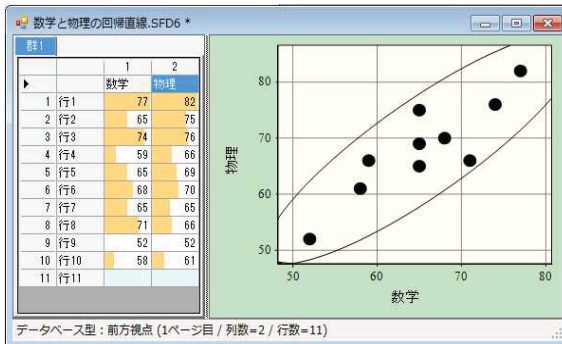
StatFlex での計算

手順：

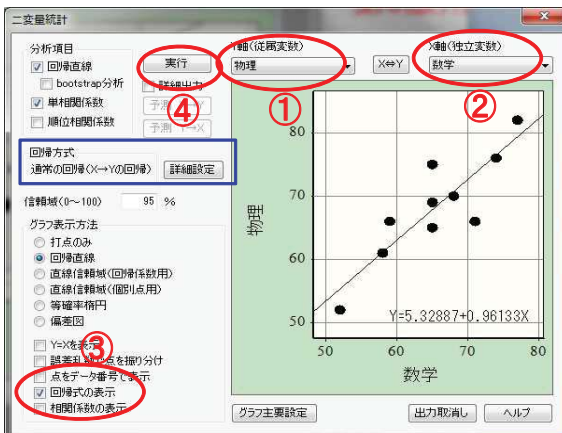
1. サンプルファイル「例題 37_数学と物理の回帰直線.SFD6」を開く。
2. 「統計」メニューの「多変量解析」の「二変量統計」を選択する。
3. ① Y 軸（従属変数）に物理を選択、② X 軸（独立変数）に数学を選択する。
4. ③グラフ中の回帰式の表示にチェックを入れるか、④「実行」をクリックする。
5. 回帰直線 $Y = a + bX = 5.32887 + 0.96133X$ と表示される。

なお、回帰式の種類を変更したい場合は、「回帰方式」の詳細設定で、標準主軸回帰、Deming 回帰、Passing-Bablok 法などが選択できる。（187 頁回帰直線による予測の求心性と線形関係性を参照）

計算過程と結果：



詳細設定で
標準主軸回帰、
Deming回帰
Passing-Bablok法など
回帰式が選択可能



<< 相関係数と回帰直線 >>

Y:物理 X:数学

$r = 0.8715$ ($0.5361 \sim 0.9693$) は 95.0 %信頼区間
($P < 0.01$: 統計表より)

$n = 10$

有意確率に対する r 値 (相関係数検定表)

$P < 0.05$: $r = 0.632$

$P < 0.01$: $r = 0.765$

$P < 0.001$: $r = 0.872$

< X を基準に Y を回帰 >

回帰直線 $Y = a + bX = 5.32887 + 0.96133X$